



男子バレーボル部 元気!!

中学部活 少子化の中、部員増



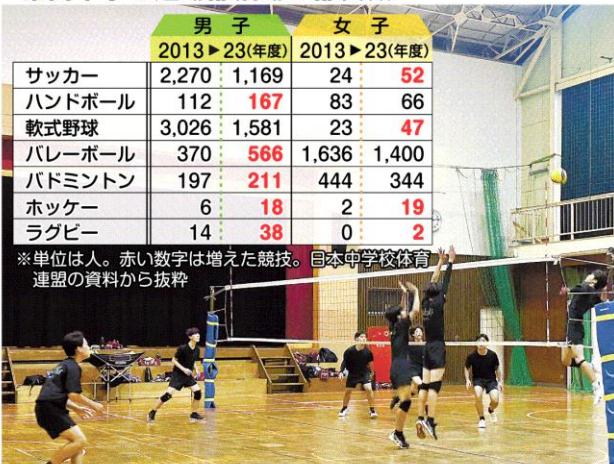
隨時揭載

少子化や習い事の多様化に伴い、中学の部活動でスポーツに励む生徒は減少している。県の調査によると、昨年度、県内の中学で運動部活動に所属していた部員は1万6911人。記録の残る2001年度と比べて1万人以上も減った。こうした中、近年になって部員数を増やしている競技もある。どんな背景があるのかを調べた。(佐藤光里)

県内中学の運動部活動の部員数

	男子	女子	
	2013▶23(年度)	2013▶23(年度)	
サッカー	2,270	1,169	24 52
ハンドボール	112	167	83 66
軟式野球	3,026	1,581	23 47
バレーボール	370	566	1,636 1,400
バドミントン	197	211	444 344
ホッケー	6	18	2 19
ラグビー	14	38	0 2

※単位は人。赤い数字は増えた競技。日本中学校体育連盟の資料から抜粋



練習に励む男子バレー部員=7月、別府市北石垣

全国的に部員数が増加傾向なのは、男子はバレー、ボーラーとバドミントン、女子は軟式野球とサッカー。県内では他にも、男子のハンドボールや男女のホッケー、ラグビーが伸びている。

一部だ。昨年度、県内は566人。13年度の370人から10年間で約200人増えた。全国では約1万人も増加した。

本田唯人さん（3年）と一宮優真さん（同）は「一部員以外の人も日本代表の話を聞いていてバレ一人気を感じる。サッカーや野球を超える人気競技になつてほしい」と話した。

他の部活動はどうか。ホッケーは、優れた身体能力を持つ選手を見いだして育成する県教委の「チーム大分ジュニアアスリート発掘事業」の競技に21年度まで入っていた。19年度には玖

県中体連は「男女混合で大会出場ができる仕組みができたことなどで、小学生年代から性別にかかわらずやりたい競技ができる環境が整つてきている。その結果が中学生の部活動選びにも表れているのではない」と述べた。

「女子のスポーツ」「女子のスポーツ」といった競技などのイメージがなくなってきたいるのも特徴。サッカー女子日本代表「なでしこジャパン」や、バドミントンの男子選手の活躍など、世界のトップレベルで競う日本人選手の姿が影響を与えているようだ。

珠町のくす星翔中に男女の部が新設された。
ハンドボールは10年ほど前から県内で男子の日本リーグの試合が開かれていた。県協会は「観戦した子どもがダイナミックなプレーに憧れを抱き、競技を始めるきっかけになつていいのではないか」と推測する。

漫画影響？「この5年で急伸」



〔問①〕 中学の部活動でスポーツに励む生徒は減少しているとされています。理由は？

少子化や習い事の多様化

〔問②〕 昨年度、県内の中学で運動部活動に所属していた部員は何人？
2001年度と比べて何人の増減？

昨年度は1万6911人 2001年度と比べて1万人以上の減少

〔問③〕 全国、県内ともに最も増加幅が大きいのは何部？ 理由は？

男子バレー部
バレー漫画「ハイキュー!!」で人気、日本代表が力を付けたこと

〔問④〕 どうすれば運動部に所属する生徒が増えると思いますか？
全体から、個別の競技から、考えてみよう。

自由記述